第２５回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和元年１１月１３日（水）１８時００分～ |
| 開催場所 | アーニス２階会議室 |
| 出席者 | （部 会 長）川田　弘教（副部会長）吉田　武史（部 会 員）小川　昌宏、宮下　裕次、安達　陽子（アドバイザー）荒川　昌伸（庁内委員）森元　俊明、大澤　玲裕（事 務 局）大越　智輝、塚崎　翔太（オブザーバー）北海道登別明日中等教育学校の生徒１名 |
| 欠席者 | （部 会 員）鈴木　高士、近井　一夫、 |
| 議題 | 地場産品を活用した料理教室、未活用資源の観光商品化について |

【地場産品を活用した料理教室について】

・１１月１７日（日）に開催予定の料理教室には、本日現在、３１名の参加申し込みがある。

・登庖会より、当日の調理メニューを少し変更するとの知らせがあった。

・のぼりべつ牛乳のＰＲについては、参加者にのぼりべつ酪農館のリーフレットを配布し、部会長あいさつの後に事務局が説明を行うこととする。

・当日、産業躍動部会からは川田部会長、大澤委員、大越、塚崎、北海道登別明日中等教育学校の生徒１名が参加する。うち塚崎・登別明日中等教育学校生徒の２名は調理にも参加する。

・地場産品を活用した料理教室は当初、平成２９年度から３回の実施を予定していた。今年度が３回目となるため、一旦ここで区切りをつけることとしたい。

【未活用資源の観光商品化について】

・１０月１日、３日に実施した、登別駅を起点としたツアーコースの下見について事務局から報告を行った。

・コースについての各委員からの所感、意見は次のとおり。

　○初めて見る方、特に外国から来た方は喜ぶと思うが、インパクトが弱いのでスケソウダラ漁の見学の後に体験や試食があると良い。

○いつも見る漁港の風景とは印象が違い、綺麗で感激した。港の自然・風景や漁師の仕事を見るだけで十分価値がある。体験があれば完璧。さらに、ツアー時にいろいろな話を聞かせられればより体験が深まり、感じ方が変わる。

○橋の下に何百匹も鮭がいて産卵の準備をしているのは一見の価値あり。あとは、どんな物語を伝えられるかが大切。

○漁業関係者から漁具の解説などを聞けると知識を深められ、楽しんでもらえる。フンベ山の伝説などの面白い話があれば、移動の間も楽しんでもらえる。

○この時期・時間にツアーに参加するには覚悟がいる。眠く寒いので、それなりのコンテンツがないと参加してもらいにくいのではないか。

○登別川河口は歩道がなく危ない。早朝でも車の往来が激しいので、歩道のある国道３６号の登泉橋の方が安心して見られる。

○暗い中で港に明かりが灯る様子は新鮮。

○観光客はどんなことでも楽しめるとのことなので、コースをインターネットで公開すれば自然に訪れてもらえるようになるのではないか。

○漁師は、観光客が見に来ることは迷惑とは思わない。ただ港に活気があふれる時期は限定的で、１０～３月の漁期のうちでも１０月はじめと１２月に限られる。ほかの時期は漁を休むことがある。

○スケソウダラ以外のえび、かに、ホッキ等の漁は入港後の作業があまりないので見ても面白さはない。

○観光客の目を引くのはスケソウダラ漁のみであり、更に１０～３月の漁期のうち一時期しか活気づかないので、港でのツアーはその時期に限って考えるべき。

○漁のある日、ない日の情報を出せればよい（天候の問題はあるが）。

　○競りの風景を見たり選別の体験をできるとよい。

○スケソウダラと混獲され廃棄されているイトヒキダラで名物を作るとよい。

・上記を踏まえ、市民向けのツアー実施に向けて、次回の部会開催までに各自ツアーの改善点を考えることとする。

・市民向けツアーの催行に際しては、ツアーを商機として生かせそうな事業者を招待し、最終的な有料のツアー催行へとつなげる。

・事業の周知に当たっては、若者は紙媒体よりもSNS等を目にする機会の方が多いので、効果的に参加者を集めるためその活用を図る。

・ツアーを今後商品化するのか、情報発信をする材料にするのかを今後重点的に議論する。

・ツアー以外の今後の取り組みとして、例えば毎月２回程度、ブログに鮭やスケソウダラの水揚げ風景や子宝もちつき舞、豆まき、源泉湯かけ合戦、コーザングリーンレースなどの様子を掲載して地域の魅力をＰＲするということが考えられる。

【今後の部会の方向性について】

・庁内委員から、市民自治推進委員会の方向性がはっきりしない中で会議を続けていては部会員の皆さんの気持ちが離れていってしまうので、今後の方向性の検討や部会での取り組みを見直すに当たっての意見調整を部会員の皆さんの意見を聞きながら進めていく時期に来ているのではないかとの意見があった。

・これに対し、部会員からの意見は次のとおり。

○部会が目指す方向性は手探りではあるが、現在取り組んでいるものが形になるまではやっていきたい。

○やることが市から指示されないのは良いことだが、部会員自らが考えなければならず、考えるに当たっては部会員に余裕がないことから、方向性をつくるのに庁内委員がリードしてくれる体制の方がよい。市が抱えている課題や問題について意見をもらいながら調整できるスタイルの方が良いと思う。

○基本的に今所属している部会はそのままで良いので、他の部会にも自由に参加できるように情報を提供して関わってもらえる仕掛けが必要。産業躍動部会に参加する人の輪を広げられればもっと意見が集まり、活動の幅も広がる。現に都市調和部会の荒川部会員が関わってくれたことで、産業躍動部会はより活発になっている。

・事務局からは、１２月から１月にかけて全体会議を開催する見込みとなっているので、その中で市民自治推進委員会で今後どのような取り組みをしていくのか話したいとの仲川委員長の意向がある旨を説明した。

・これに対し、部会員から、全体会議でグループワークをしながら皆が求めているテーマを抽出すると、それに関わりたくなり、そのテーマに基づき活動すると集まりも良くなり、ある程度の方向性・形もできるのではないかとの話があった。

【次回について】

●日程：１２月１７日（火）